

初期消火訓練

大規模な地震が発生した場合、最も怖いものは火災です。阪神・淡路大震災では、火災によって大きな被害が出ました。火災を起こさないために、出火防止対策を積極的に行うとともに、火災が発生した場合はすぐに消火できるよう、初期消火方法を習得しておくことが大切です。また、火災から身を守る方法も知っておく必要があります。

訓練内容

【消火器を使用した訓練】

- ① 次の条件を満足する訓練場所の選定を行いましょう。
 - ・十分な広さの空地、広場
 - ・周囲に燃えやすい物がない場所
 - ・上方に電線等がない場所
 - ・消火器の粉が飛び散っても周囲に迷惑がかからない場所
 - ・足元が滑りやすい場所、つまずきやすい場所は避ける。
 - ・オイルパンを設置する地面は高温になるので、アスファルト上はなるべく避ける。(アスファルトの場合、オイルパンとアスファルトの間に、レンガ又はブロックを敷き、オイルパンの熱が、直接地面に伝わらないようにする。)
- ② 訓練場所の設営要領
 - ・オイルパンの周囲に、白線で危険防止の線（3～5メートル離れた位置）を引く。(オイルパンに近づき過ぎると火傷をするおそれがある。)
 - ・ボロ布をオイルパンに入れる。
 - ・灯油を0.5リットル程度、ガソリンを0.2リットル程度、オイルパン内のボロ布にかける。
 - ・風向きを考え、オイルパンから離れたところで点火棒に火をつける。
 - ・風上から近付き、点火棒でオイルパン内のボロ布に火をつける。
- ③ 消火器で消火します。

【準備用品（例）】

参加者10人当たり 粉末消火器ABC4型 3本、オイルパン・・・縦、横1メートル程度、ガソリン0.6リットル(3回分)、灯油1.5リットル(3回分)、ボロ布(シャツ類3枚程度)、点火棒 1本
--

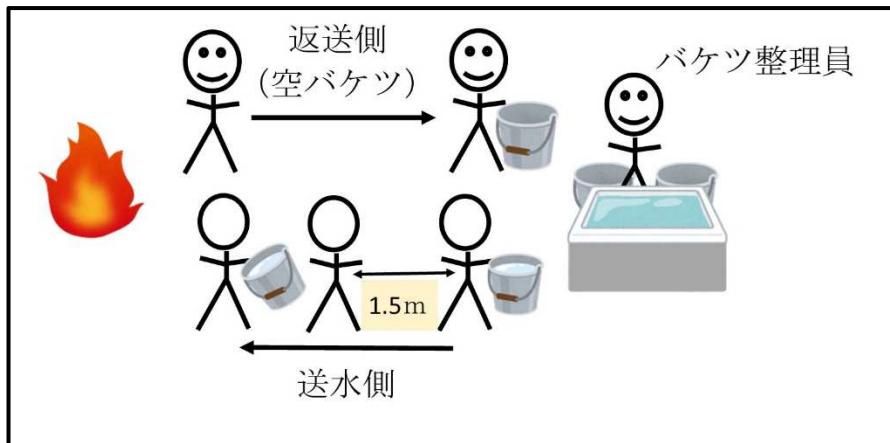
消火器などの物品を用意することが難しい場合は、大月市消防本部で水消火器の貸し出しをしていますので、そちらを使い訓練を実施してください。

【バケツリレーによる消火訓練】

① 一列リレー

- ・ 体系は、図1に示すように、送水側は約1.5メートル間隔で一列に並び、水源から火元までバケツをリレーします。
- ・ 返送側（空バケツ）の人員は、送水側の1/5程度とします。
- ・ 背後が見えないため、必要に応じて安全監視員を配置しましょう（列が道路等を横断する場合など）

図1



★バケツリレー訓練のポイント

- ・ バケツに入れる水の量は、バケツの半分程度にしましょう。

バケツリレーをするときは大人数で！！

本当に火事が起こった際は、10回、20回と水をかけて、火が消えない場合もあります。30回、50回と行われなければならないこともあり、そうすると、疲れて人が抜けてしまい、人と人との距離が遠くなり、効率が悪くなってしまいますので、なるべく大人数で行いましょう。

【準備用品（例）】

バケツ（参加人数の2/3以上の個数）、目標物（火点）、水槽など